

日本学術会議
子どもの成育環境分科会（第25期第3回）議事録

日時：令和3年10月4日(月) 18:00～19:00

場所：遠隔会議(zoom)

出席者：山中（委員長）、西田（副委員長）、相澤、浅野、伊香賀、大倉、神尾、斎尾、定行、都築、湯川、吉野、水口、宮地（敬称略）

冒頭に山中委員長から、傷害の情報の現状と問題点について、説明がなされた。その後、国立成育医療研究センターで進められている傷害データベース作成について動画を用いて説明がなされた。その後、参加委員によるフリーディスカッションが行われた。以下のような、主な意見・コメントが出された。

- 今回の傷害のデータベースの話は参考になった。建物や住宅の設計の際などのガイドラインを作る場合も、有用な情報源になりえる。建築分野でも、従来、子どもの事故を防ぐための方法は過去提案されていると思われるので、もし、ご存知の委員がおられたら教えてほしい。
- 国立成育医療研究センターの例は、素晴らしく、医療機関を定点としたサーベイランスは重要である。一方で、製品を扱っているところが情報を集めているのではないか。キッズデザイン賞があり、安全性も重要視している。建築分野もそうである。製品を作っているところ、建築をやっているところは、情報を集めているのであれば、それも使えると有用ではないか？
- 企業には、情報が集まっていないのが現状。たとえば、東京都では、製品の安全性を向上させる委員会をやっているが、そこで、企業の話聞いてみると、情報が集まっていないという話が出てくるので、企業から集めるのは難しそう。今は、重症度の高い傷害のデータが集まる医療機関で集めるというのが大事だと思う。
- どういう項目をとるべきかというデータベース案をつくるべきではないか？ 国立成育医療研究センターまで熱心な入力他医療機関では難しい場合もありそう。なので、必要十分なフォーマットが必要ではないかと思われる。分野は異なるがワクチンに関しても、どのワクチンがどういう副作用があるかのという情報がうまく集まっていないかった。そこから考えると、必要な項目を検討することが大事だと思う。

最後に山中委員長から、次回の議題として、子どもの傷害データベースの具体的な項目について開催したいとの説明があり、閉会となった。